

令和6年度小平市立学園東小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

全体の平均正答率は東京都を4ポイント、全国を6.3ポイント上回った。全14問中10問が東京都と全国を上回り、特に、漢字や主語を正しく書く問題、資料を基にして表現の効果を考えながら文章を記述する問題は、正答率が高い傾向にあった。

全14問中1問が東京都と全国を下回り、3問が東京都を下回った。正答率の低い問題を順に挙げると、①「いくつかの事柄を関連させて図にまとめたものを理解する」問題、②「物語の登場人物の心情について情景描写から判断する」問題、③「オンラインで交流する場面で相手の説明の工夫に気付く」問題であった。

- ①「いくつかの事柄を関連させて図にまとめたものを理解する」問題では、考えをまとめるための作図をする経験や他者の作成した図についての理解が必要である。
- ②「物語の登場人物の心情について情景描写から判断する」問題については登場人物の心情が文中でどのように表現されているのか考えながら正確に読むことの指導が必要である。
- ③「オンラインで交流する場面で相手の説明の工夫に気付く」問題では、相手へ説明する際に工夫する方法やその工夫によって得られる効果についての理解が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

- ①国語や総合的な学習の時間等で、作文や調べ学習を行う際、ブレインストーミングやマインドマップ等の図に表したり、その効果や工夫する方法を指導したりする。
 - ②国語で物語文を学習する際に、毎時間、登場人物の心情が分かる描写にラインを引かせたり、各場面で登場人物の心情の変化やそれらを表す箇所を見付けさせて記述させたり、表にまとめたりする指導を行う。また、授業や家庭学習を通して、音読指導を行い、正確に読む力を養う。
 - ③国語での児童同士での話し合いや他者へのインタビューを行う学習で、相手の理解を促すためにデータや実物を示す、詳しく知るために的確に質問する等の工夫や、その効果を指導する。
- 引き続き、読書活動に力を入れ、文字や文章に慣れ親しむ環境をつくる。

※○は、教科全体に関連する改善策。

東京都と全国を上回った問題の内、ポイントが大きい3問は以下の通りである。

○C 変化と関係 (思考・判断・表現)

一定の速さを基に道のりと時間の関係について考察できるかどうかを見る **短答式問題**。

○B 図形 (知識・技能)

円柱の展開図を見て、直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかを見る **選択式問題**。

○A 数と計算 (知識・技能)

問題場面の数量関係を捉え、立式できるかを見る **選択式問題**。

このように数量の関係を捉えて考える問題において正答率が高い傾向が見られ、昨年度から取り組んできた数直線や表を用いて考えさせる指導の成果が一定程度表れたものと考ええる。

一方、東京都と全国を下回った問題の内、ポイントが大きい3問の内容を見る。

▼D データの活用 (思考・判断・表現)

示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する問題。

▼B 図形 (知識・技能)

角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかを見る **記述式問題**。

▼A 数と計算 (思考・判断・表現)

「 $350 \times 2 = 700$ 」であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを問う **記述式問題**である。

この他、全国は上回ったものの東京都を7.4ポイント下回った問3(3)も「思考・判断・表現」の問題であった。

本校の児童が、東京都よりも著しく正答率が下回った3つの設問の特徴は以下の通りである。

①D データの活用 (思考・判断・表現)

示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかを問う問題。

②B 図形 (知識・技能)

角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題。

③A 数と計算 (思考・判断・表現)

計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題。

正答率が低い問題を見ると、「思考・判断・表現」の領域や記述式の問題が多い。これまで、指導の中で「考えをもつ時間」と「他者と交流し考えを深め、自分の言葉で発表する時間」をもつことや、情報量が多く、複合的な条件をもつ問題に取り組ませること等に取り組んできたが、課題を解決するに至っていない。今後は、これまでの取組に加えて、習熟度別のすべてのコースにおいて、発展的な内容の問題に取り組む時間をもち、自分の考えを文章にまとめさせ、解答に必要な考え方について丁寧に解説して理解を深める時間を確保する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ①②毎週、木曜日の「ニコ学タイム」を中心に、東京ベーシックドリル等を活用して分からない学年の学習まで遡って基礎基本の定着を図る繰り返しの指導を徹底する。
 - ③図形を扱う授業では、操作活動を多く取り入れる指導を継続するとともに、プログラミング的な思考を育む指導を行う。
 - ④習熟度に合わせて選択肢や情報量の多い発展的な問題を積極的に取り入れ、情報を整理して思考できるよう指導する。
- 学習者用端末を含むICT機器の効果的な活用や学習形態の工夫などで、自己の考えと友達の考えを比較したり、既習の学習内容を活用して問題を解いたり、課題解決の方法を話し合ったりする場面を多くつくることでさらに思考力や判断力を向上させる。

※○は、教科全体に関連する改善策。

食事や健康、ゲームや携帯電話の管理などの生活習慣に関わる項目は、東京都や全国と比べると整っていることが分かった。また、困っている人を助けている、人の役に立つ人間になりたい、と答える児童の割合も高かった。「学習習慣」に関する質問の中で、東京都や全国を大きく上回ったものは「わからないことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」「月～金曜日、学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」等であった。東京都や全国を下回ったものは、①「学校が休みの日にどれくらいの時間勉強しますか。」という質問である。「ICTを活用した学習状況」に関する質問の中で東京都や全国を上回った質問は「学習でICT機器を活用して自分の考えをわかりやすく伝えることができていますか」だった。東京都や全国を下回ったものは、②「授業におけるPC・タブレットの活用頻度」に関するものであった。「主体的・対話的で深い学び」に関する質問の中で東京都や全国を上回った質問は「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいますか」「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、解決方法を決めていますか」等であった。その中で③「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。」の質問への回答が東京都や全国を8ポイント下回った。

基本的な生活習慣や自己有用感、学習習慣等については、家庭と学校の連携ができているが、今後も維持できるよう啓発を続ける必要がある。課題については、以下に3点挙げる。

- ①他の項目への回答から、平日における学校外での学習時間は1時間以上行う児童が多く、学校が休みの日は1時間以下の児童が多い、という実態が分かった。自主学习や繰り返しドリルなどの活用、読書の奨励、デジタルドリルの活用例の紹介等を行い、休みの日にも一定の学習時間を確保できるよう促す必要がある。
- ②他の質問項目から、「PC・タブレットなどのICT機器の使用が学習に役立つ」と考えている児童の割合は、高かった。このことから児童は、学習活動でのICT機器を扱う有効性や楽しさを感じていることが分かり、今後は、学習者用端末の活用方法を教職員間で共有し、効果的な活用を場をより一層、増やしていく必要がある。
- ③昨年度の課題を踏まえ、学級活動等での話し合い活動の時間の確保に努めたことで、児童が学級活動で「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と実感していることが分かる。今後は、個々の考えを基に学級全体で合意形成を図って決定したことについて、個々で取り組むことを明確にさせ、話し合い活動がより意義のあるものになるよう、取り組みの工夫を行っていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ①通常取り組む漢字ドリルや計算ドリルなどの他に、音読や読書、デジタルドリルや自主学习のように自分で量を選択したり課題を明確化したりして行う方法を紹介し、取り組ませることで、児童が休日に一定量の家庭学習を行うことができるようにする。また、家庭学習の大切さを学校だよりを通して各家庭に伝え、家庭学習の意義や習慣化する方法、おすすめの学習方法などを紹介していく。
- ②学習者用端末の効果的な活用について校内研究を進めるとともに、様々なソフトの活用方法を職員で共有する。日々の授業や特別活動、家庭学習（持ち帰り）等で活用する場を意識的に増やしていく。また、各学年の活用事例を校内ICT研修を通して共有し、さらなる充実を図る。
- ③学級活動では、これまでの取り組みを継続して話し合い活動の時間を確保する。また、学級で決定したことについて、個々人が取り組む内容、努力する事柄を明確化させ、掲示したり、ワークシートにまとめたりすることで、学級で合意形成を図ったことについて、実現できるように促していく。